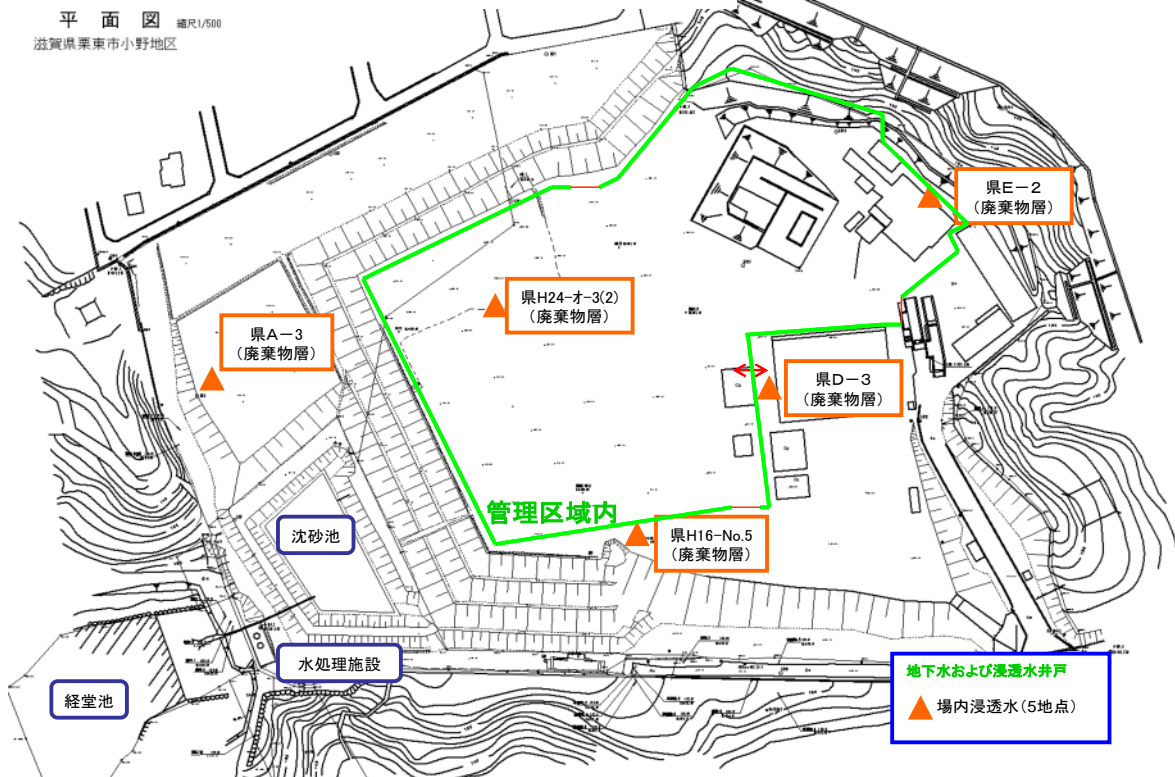


1 浸透水モニタリング結果

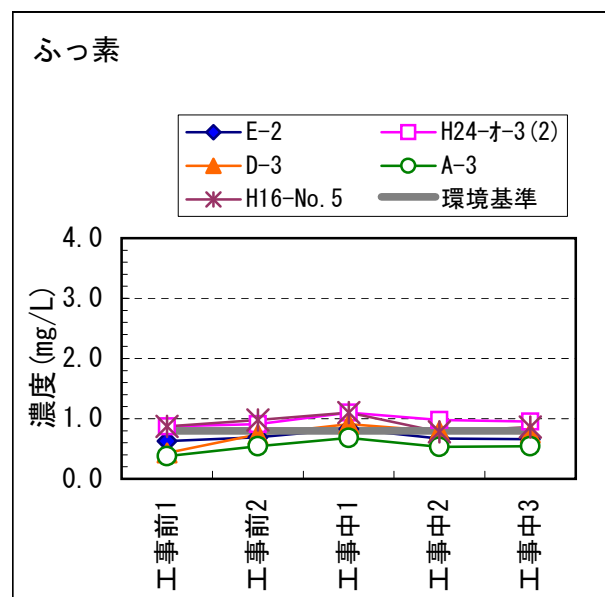
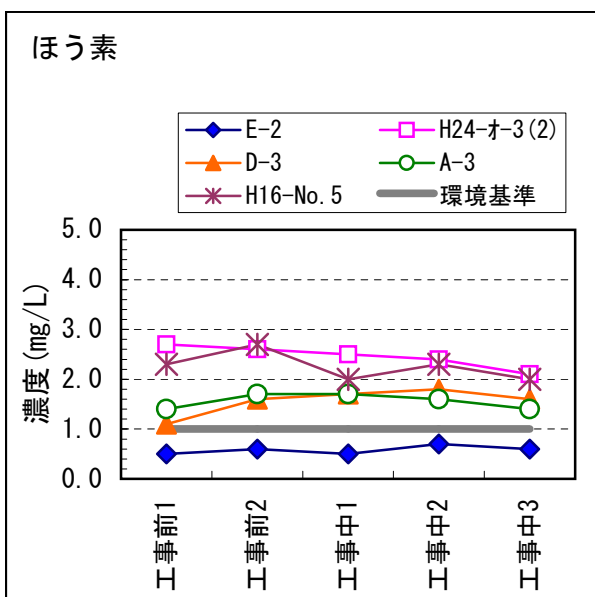
モニタリング調査位置図

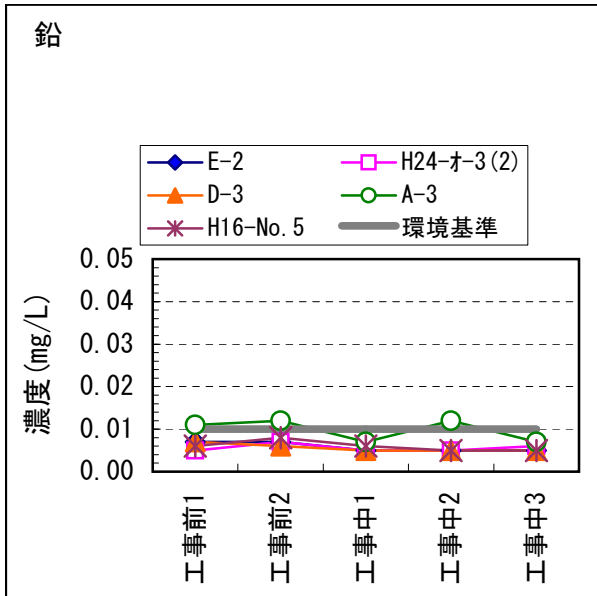


調査時期

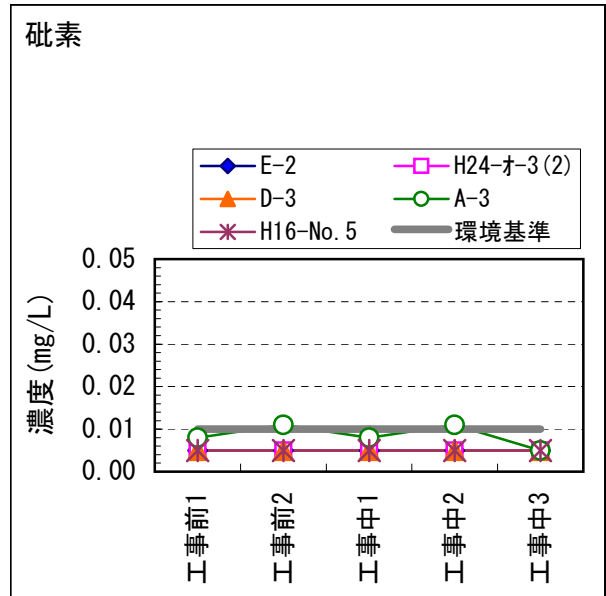
工事前1	工事前2	工事中1	工事中2	工事中3
H24.10.2(25)	H24.11.5	H24.11.27	H25.1.8	H25.1.28

調査結果

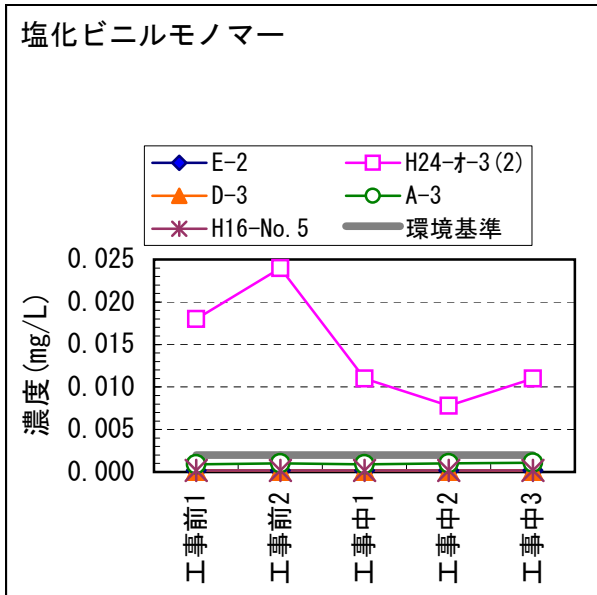




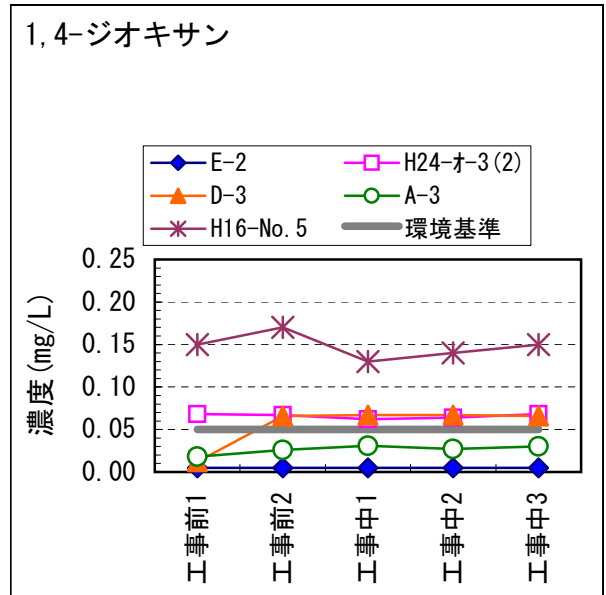
(不検出(<0.005)はグラフ上、定量下限値(0.005)として表している。)



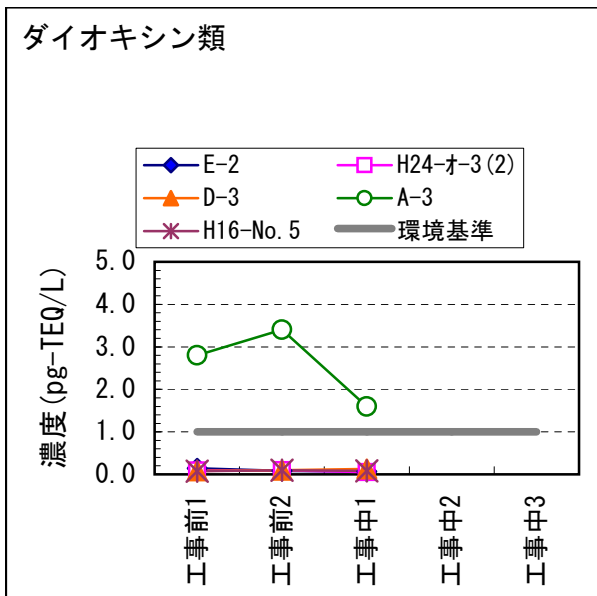
(不検出(<0.005)はグラフ上、定量下限値(0.005)として表している。)



(不検出(<0.0002)はグラフ上、定量下限値(0.0002)として表している。)

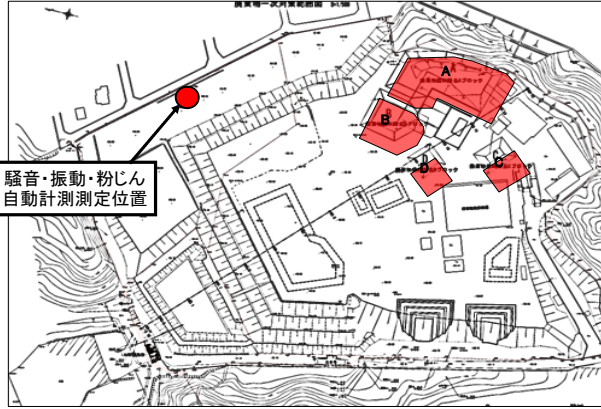


(不検出(<0.005)はグラフ上、定量下限値(0.005)として表している。)



2 周辺環境モニタリング結果(騒音・振動・粉じん)

モニタリング位置図



測定期間等

測定期間： 休工日を除く廃棄物土掘削作業期間 平成24年11月15日～平成25年2月25日

測定時間： 作業日の作業時間 午前8時30分～午後5時30分

規制基準値

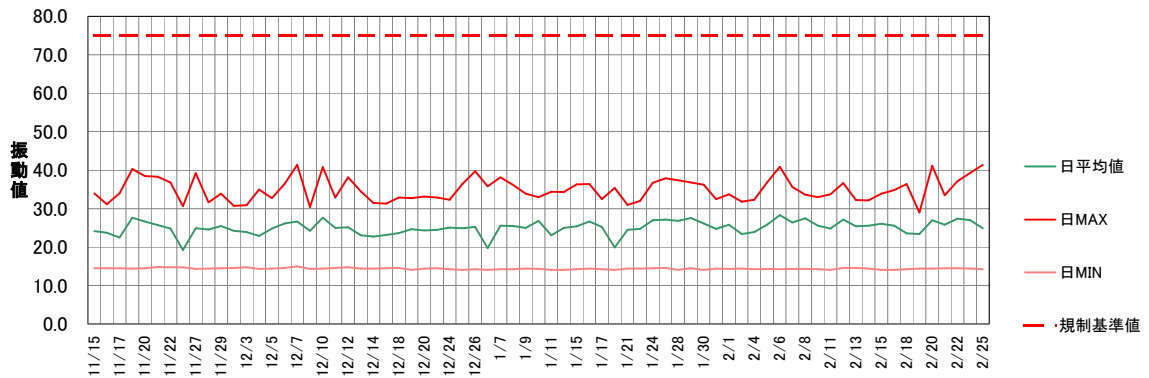
振動： 栗東市の特定建設作業に係る規制基準値(75dB)

騒音： 栗東市の特定建設作業に係る規制基準値(85dB)

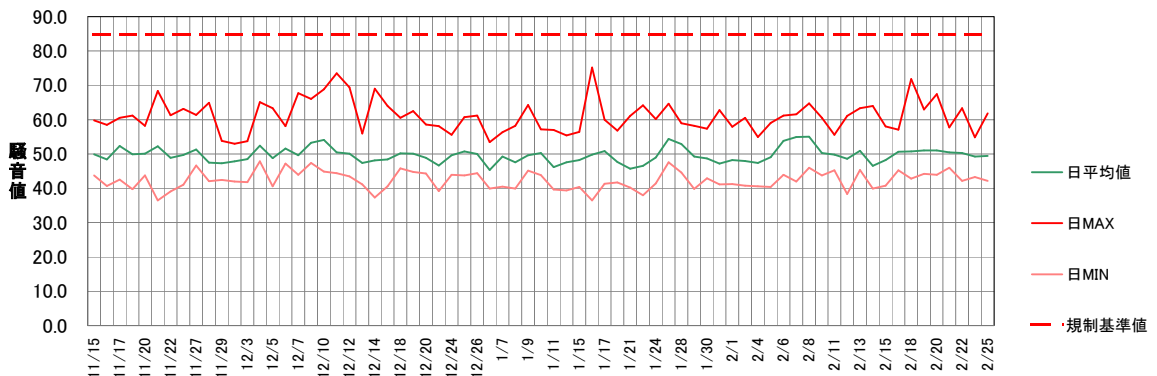
粉じん： 大気環境基準の浮遊粒子状物質(SPM)の1時間値(0.20mg/m³)

測定結果

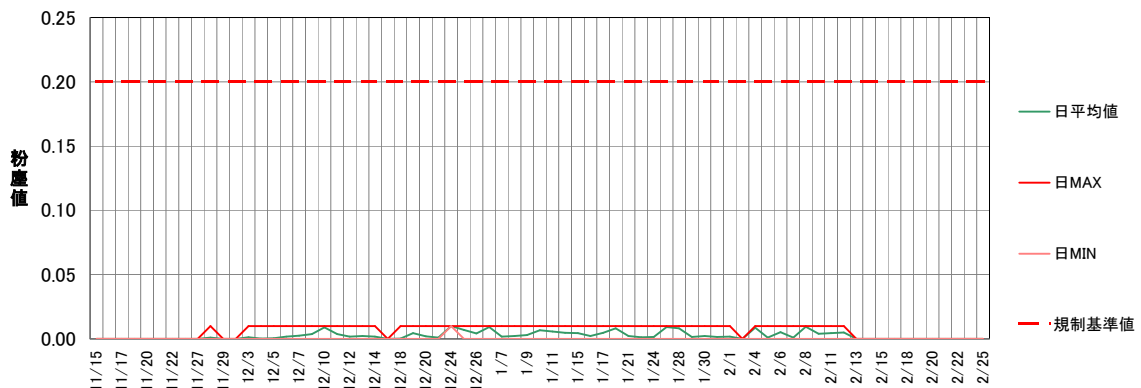
振動(dB)



騒音(dB)



粉塵(mg/m³)



旧RD最終処分場に係る特定支障除去等事業実施計画（案）に対する 滋賀県環境審議会意見

実施計画案については妥当である。

なお、次の意見について配慮するよう申し添える。

- (1) 将来的な不安を残すことがないように、原因物質や要因の除去に努めること。
- (2) 対策工事の実施前や実施後も含めて、十分なモニタリング調査を行うこと。
- (3) 有害物搬出先で適正な処理処分が行われているか十分な確認を行うこと。

上記の意見を取りまとめるにあたり、各委員から出された具体的な意見は以下のとおりである。

- ・ 将来の処分場の跡地管理、跡地利用への支障も極力除去するという観点から、単に現在の障害を除去するだけでなく、将来をも見込んだ対策を講じるべきである。
- ・ 汚染源物質を早急に除去することにより今後の汚染の拡散は防止できることから、揮発性有機化合物類の発生源の特定は今後の対策においても重視する必要がある。
- ・ 今後の支障と考えられる物質として、重金属類、揮発性有機化合物類とならんで硫化水素があげられる。硫酸イオンが高濃度の水では、条件を整えば硫化水素再発生の元となる。この処分場跡地ではカルシウムイオンが高濃度な状況が確認されていることから、硫化水素の発生源は石膏ボードと思われる。硫化水素発生事故の再発を防止するため、石膏ボードや有機物などの除去、または地下環境の嫌気化の防止などが必要である。
- ・ ドラム缶等の除去にあたっては、周辺への有害物質の拡散がないよう、回収・搬出すること。
- ・ 撤去した有害物が搬出先で適正に処理・処分されているか十分な確認を行うこと。
- ・ 一次対策による有害物質の撤去および新井戸からの浸透水の揚水により、下流地下水が環境基準を超過しないように十分なモニタリング調査を行うこと。
- ・ 周辺河川、水路のモニタリング、周辺の環境調査を実施すること。